

UVインキ

UV CORE TYPE-D シリーズ

『UV CORE TYPE-D』は近年普及が進んでいる省電力型UVシステム(オゾンレスUV、LED-UV)にも対応した各種フィルム用UVインキです。新規材料の採用によりPP・PE・PET・メタルホイル紙等の原反への密着性が良好です。

■ 特徴

- ▶ 省電力型UVシステムに対して硬化性が良好です。
- ▶ PP・PE・PET・メタルホイル紙等の非吸収原反への密着性が良好です。
- ▶ 上塗り適性・箔押し・ラミネート等の後加工は条件を選択することにより可能です。(後加工性につきましては必ず事前テストを実施し、適性をご確認の上、作業を進めてください。)

■ 基準色および耐性

| 品名 | 耐光性 | | 耐熱性 | 耐石けん性 | 耐溶剤性 |
|--------------------------|------|-----|-----|-------|------|
| | 濃色 | 淡色 | | | |
| UV CORE TYPE-D 黄 | 4 | 3 | 4 | 5 | 5 |
| UV CORE TYPE-D 紅 | 4~5* | 3* | 4 | 2 | 4 |
| UV CORE TYPE-D 藍 | 8 | 7 | 5 | 5 | 5 |
| UV CORE TYPE-D 墨 | 7~8 | 7 | 5 | 5 | 5 |
| UV CORE TYPE-D メジウム | 8 | — | 5 | 5 | 5 |
| UV CORE TYPE-D 白 | 8 | 7 | 5 | 5 | 5 |
| UV CORE TYPE-D 金赤 | 4~5 | 3 | 4 | 3 | 4 |
| UV CORE TYPE-D 紫 | 7~8 | 7 | 5 | 5 | 5 |
| UV CORE TYPE-D グリーン | 8 | 7~8 | 5 | 5 | 5 |
| UV CORE TYPE-D 超耐光性 黄 | 6~7 | 5~6 | 5 | 5 | 5 |
| UV CORE TYPE-D 超耐光性 紅 | 6~7 | 5~6 | 5 | 5 | 5 |
| UV CORE TYPE-D 超耐光性 金赤 | 6~7 | 5~6 | 5 | 5 | 5 |
| UV CORE TYPE-D SR コンク 黄 | 8 | 7 | 5 | 5 | 5 |
| UV CORE TYPE-D SR コンクレッド | 8 | 7 | 5 | 5 | 5 |
| UV CORE TYPE-D SR ローズ | 8 | 7 | 5 | 5 | 5 |

評価: 耐光性 8(優) ⇄ 1(劣)、その他: 5(優) ⇄ 1(劣)

* 水に濡れた状態では、耐光性が極端に悪くなります。

<試験方法>

耐光性…印刷物をフェードメーターにて照射試験し、暴露時間と変褪色の程度により強度を8段階に分類。

希釈しない濃色とメジウムで5倍に希釈した淡色を試験する。

- ▶ 記載のデータは、当社の試験方法による実測値であり、規格値ではありません。ご使用に際しては、貴社使用条件に適合するかを必ずご確認願います。なお、本文中の用途はいかなる特許に抵触しないことを保証するものではありません。
- ▶ 製品改良のため、予告なく内容を変更することがあります。
- ▶ 製品使用の際は、必ず事前に安全データシート(SDS)をご一読願います。

耐熱性…印刷物を150℃の熱風循環式乾燥機中で10分間加熱し、変褪色の程度により強度を5段階に分級。

耐石けん性…印刷物を10%の石けんゲルに20～25℃で1時間付着し、変褪色の程度および石けんゲルへのブリードの程度により強度を5段階に分級。

耐溶剤性…印刷物をトルエンとアセトンの1:1混合液に20～25℃で24時間浸し、変褪色および混合液へのブリードの程度により強度を5段階に分級。

■ 使用上の注意

- ▶ 被印刷物へのインキ密着性は、材質や表面状態、温度等により異なります。貴社省電力型 UV システム装置で硬化性・密着性確認のための予備試験を行って下さい。
- ▶ 後加工性につきましても必ず事前テストを実施し、適正をご確認の上、ご使用ください。
- ▶ 長時間放置した場合、インキ壺上のインキが蛍光灯からの紫外線に反応して硬化する場合があります。壺上のインキが皮張りする場合、紫外線カットの照明のご使用や、インキ壺上の遮光等のご検討をお願いします。
- ▶ 助剤・洗浄剤・版材・ブランケット等については、UVインキ用のものをご使用下さい。
- ▶ インキ盛り過ぎやランプ劣化により、硬化不良・密着不良の原因となりますので、ご注意ください。
- ▶ 目に入った場合には、直ちに多量の水で15分以上洗い流し、眼科医の手当を受けて下さい。皮膚に付着した場合には、汚染された衣服や靴等の汚れを落としたのち、付着部または接触部を石鹼水で洗浄し、多量の水を用いて洗い流して下さい。もし皮膚に炎症やかゆみを生じた場合は、直ちに医師の手当を受けて下さい。
- ▶ インキ取り扱い時は火気に注意し、作業場は換気を十分に行い、紫外線や直射日光を避けて取り扱って下さい。吸い込んだり、目、皮膚及び衣類に触れたりしないように適切な保護具を着用願います。人体に影響がないよう考慮して設計しておりますが、皮膚・衣類等にインキが付着したまま長時間放置いたしますと、人によってカブレを生じる場合がありますので、作業衣等に付着した場合は、直ちにその汚れを落とし着替えて、汚れ部分が長時間接触することを避けて下さい。取り扱い後は手洗いとうがいを十分に行って下さい。



2022/1/31 No.2

- ▶ 記載のデータは、当社の試験方法による実測値であり、規格値ではありません。ご使用に際しては、貴社使用条件に適合するかを必ずご確認ください。なお、本文中の用途はいかなる特許に抵触しないことを保証するものではありません。
- ▶ 製品改良のため、予告なく内容を変更することがあります。
- ▶ 製品使用の際は、必ず事前に安全データシート(SDS)をご一読願います。